

大田区都市計画 マスタープラン

概要版

令和4年3月 大田区

第1章	都市計画マスタープランとは	1
第2章	都市づくりの現状と課題	3
第3章	めざす都市の姿	6
第4章	部門別方針	13
第5章	地域別方針	17
第6章	将来都市像の実現に向けて	25



第1章 都市計画マスタープランとは

役割

都市計画マスタープランとは、都市計画法第18条の2で定める「市町村（特別区を含む）の都市計画に関する基本的な方針」であり、大田区基本構想に即するとともに、中長期的な視点に立った都市の将来像を明確にし、その実現に向けた大きな道筋を示すものです。他の分野別計画などとも連携を図り、環境や産業、防災など、施策を展開するにあたっての、都市づくり分野のガイドラインとしての役割を担うとともに、多様な主体による協働のまちづくりを推進するための指針としての役割を持っています。

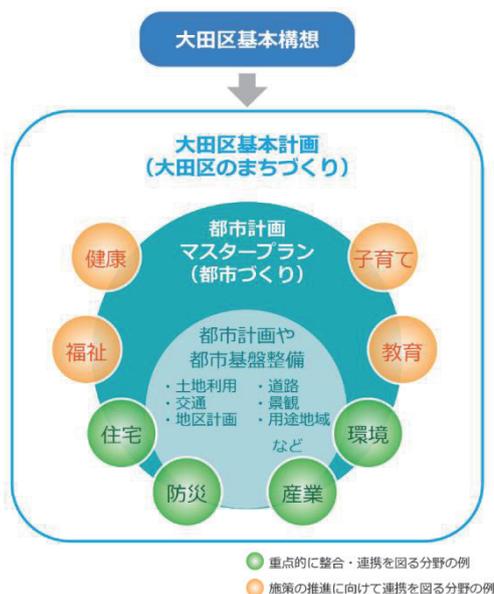


図 都市計画マスタープランで扱う内容

目標年次

大田区都市計画マスタープランの目標年次は、2040年代（概ね20年後）とします。都市づくりは、中・長期的な期間をかけて合意形成を図る事業や施策であり、継続して続けていくことが重要です。そのため、この目標年次は、都市づくりを進める目安としての期間とします。

体系

大田区都市計画マスタープランは、東京都の方針・計画をはじめ、「大田区基本構想」や「大田区基本計画」、地域別構想となる各地域のまちづくり計画など区の計画・方針等と連携していきます。（右図「都市計画マスタープランの体系」参照）

構成

大田区都市計画マスタープランでは、都市づくりの課題や大田区基本構想で掲げる将来像などを踏まえ、めざすべき将来都市像を設定します。その実現に向けて設定された都市づくりのテーマを踏まえ、「将来都市構造」、「土地利用の方針」、「部門別方針」、「地域別方針」を示し、大田区の将来像の実現をめざします。また、都市づくりのテーマについては、部門別方針に対して横断的な視点を示すことで、戦略的に都市づくりを推進します。

（右図「都市計画マスタープランの構成」参照）

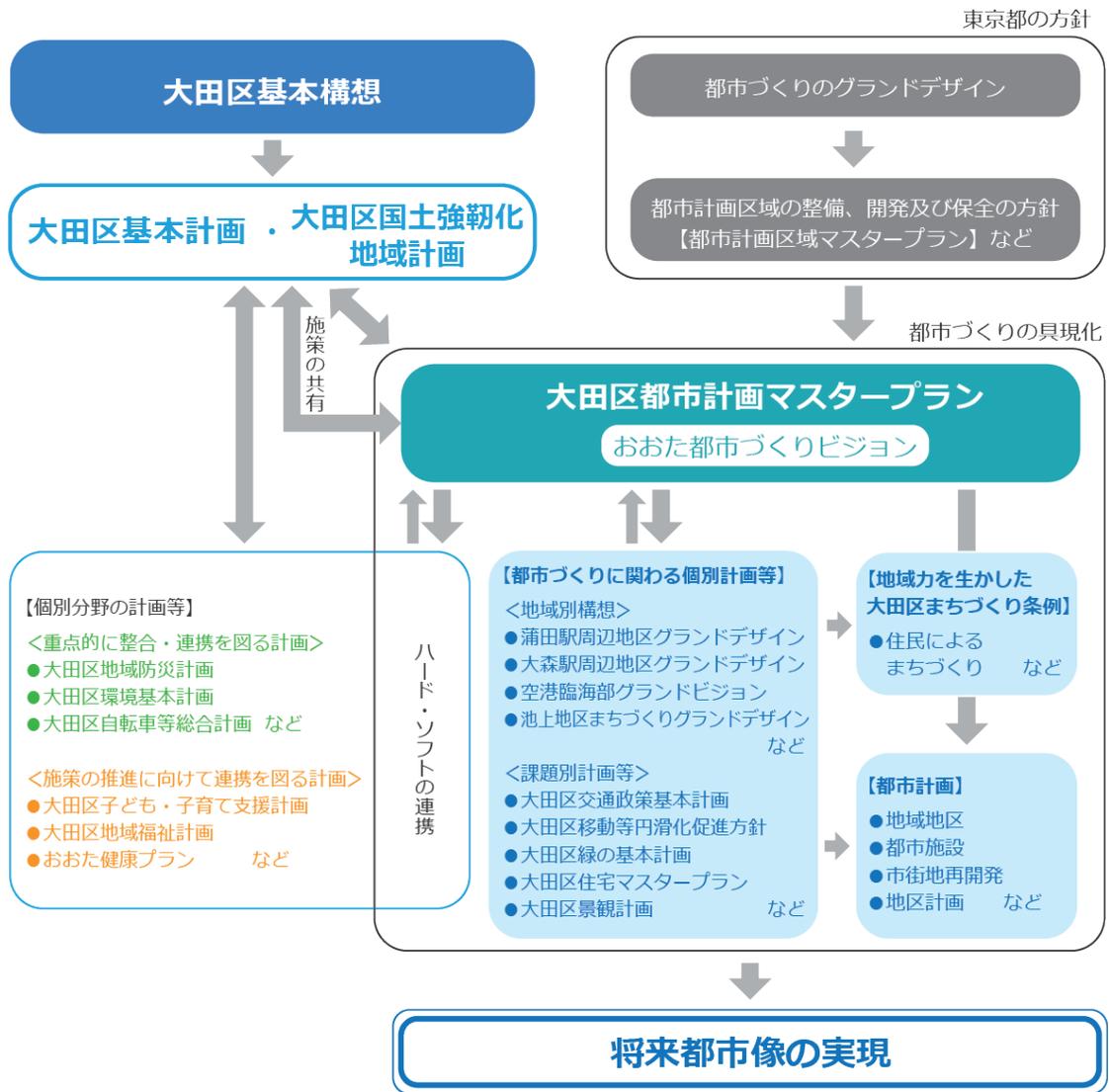


図 都市計画マスタープランの体系

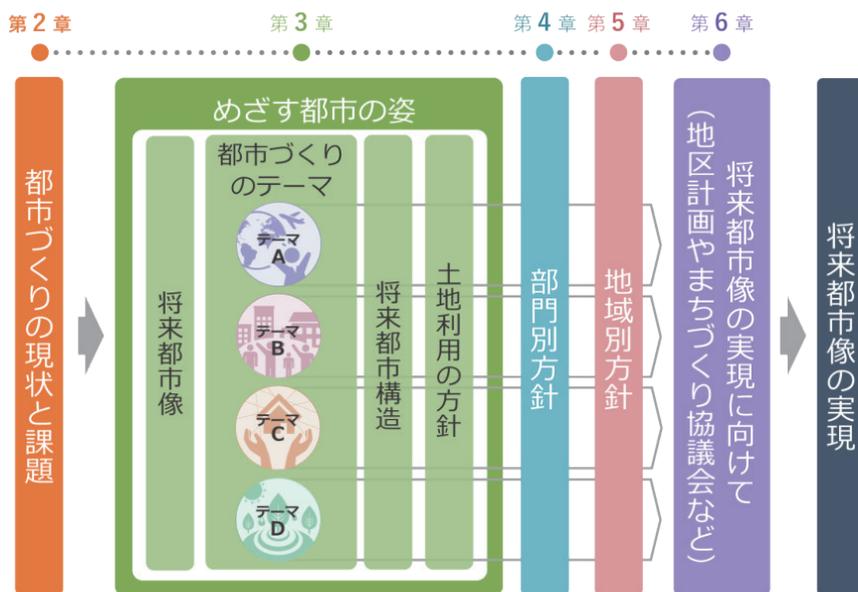


図 都市計画マスタープランの構成

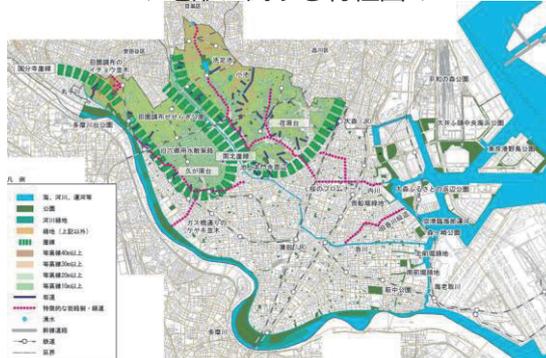
第2章 都市づくりの現状と課題

大田区の現状

大田区の概況

- 大田区は、東京都の東南部にあり、東は東京湾に面している。
- 大田区は、武蔵野台地東端にあたる、国分寺崖線及び南北崖線を境に、北西部の台地部と多摩川、丸子川、呑川、内川等が運んできた土砂が堆積した中央部の低地部、また戦後の埋め立てによって形成された東部の空港臨海部と、大きく3つの地域に分かれている。

< 地形に関する特性図 >



出典 大田区景観計画

社会的な動き

- 人口動態の変化（人口は増加基調だが、老年人口の割合が増加）
- 国際化の進展や多様な働き方・ワークライフバランスに関するニーズの変化
- 自動運転など各分野の技術革新の進展
- 脱炭素化に向けた取組 など

大田区の現状

土地利用/活力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専用工場及び住居併用工場、商業用地も減少 ・ 住宅と工場の共存する市街地で住宅への土地利用転換が見られる ・ 昼夜間人口比率は、区全体において減少傾向（夜間人口が増加傾向）
国際化/文化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ 航空需要が増加し、羽田空港の乗降客数は増加
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造業事業所数構成比率は、全国や東京都と比較して高い割合
地域（拠点）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設の老朽化が進んでおり、効果的な公共施設の更新を推進
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要幹線道路が一定程度整備され、自転車走行環境整備も進捗 ・ 交通不便地域が存在 ・ 東西方向の利便性を高めるため、新空港線の整備を推進
生活（住環境・福祉等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空家率は減少しているが、周辺区市と比較して高い ・ 住宅ストックの「量」はすでに充足している
景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多彩な地域の特性を活かした景観づくりや地区に応じた一体的な景観づくりを推進
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備地域の不燃領域率、延焼遮断帯形成率は向上 ・ 大田区全体の不燃化率、耐震化率は向上 ・ 浸水や土砂災害など、震災や風水害等の被害が予想される地域が存在
水と緑	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区民1人当たりの公園面積は増加しているが、区全体の緑被率は減少
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球温暖化の原因とされる温室効果ガスの区内の排出量は減少傾向 ・ 温室効果ガス排出の原因となるエネルギー消費量は減少傾向

大田区の課題

① 土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ○工場と住宅が混在した市街地や、商業業務の発展を図る地域と閑静な住宅地が隣接した市街地における調和した市街地の形成 ○良好な住環境の維持向上
② 活力	<ul style="list-style-type: none"> ○東京圏の成長に寄与する広域拠点性の向上 ○持続的な成長に資する活力あふれる拠点の形成 ○質の高い都市空間による魅力向上
③ 国際化	<ul style="list-style-type: none"> ○大田区の立地特性を生かした国内外の人・モノ・情報が集積・交流する都市づくり ○多様なニーズに対応した国際交流都市としての都市づくりの推進
④ 産業	<ul style="list-style-type: none"> ○大田区の地域特徴を踏まえ、先端技術の発信や国内外企業との交流・協業の推進など、創造性豊かな産業都市づくり ○住環境と調和した多様な働き方に対応する環境の整備
⑤ 文化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ○観光資源になりうる地域の魅力創出 ○多様な文化との共生を促すまちづくり
⑥ 交通	<ul style="list-style-type: none"> ○超高齢社会や大規模災害、物流増など、新たな課題を抱える都市を支える道路・交通体系の検討 ○歩行者や自転車を主体としたウォークアブルな交通環境づくり ○エネルギーの最適化に対応した交通利便性の向上
⑦ 地域（拠点）	<ul style="list-style-type: none"> ○中心的な拠点における都市づくりの推進・連携とともに、多様なライフスタイルに対応した生活を支える拠点の魅力向上や市街地の整備 ○将来を見据えた効果的・効率的な公共施設等のマネジメント
⑧ 生活（住環境・福祉等）	<ul style="list-style-type: none"> ○多様化する生活ニーズを捉えた生活利便性・快適性の向上 ○幅広い人々を想定したユニバーサルデザインの都市づくり
⑨ 景観	<ul style="list-style-type: none"> ○大田区の特徴を活かした景観づくりを通じた個性ある都市づくり ○日本の玄関口にふさわしい景観づくり
⑩ 地域力（協働）	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向けた地域力を育む区民活動の支援 ○年齢や性別、国籍、職業などの枠を超え、あらゆる人々が活躍できる都市づくり
⑪ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ○強靱かつ迅速に復興できる都市環境の整備 ○地域力を活かした防災性・防犯性の向上 ○災害時でも活用できる都市インフラやオープンスペースの整備
⑫ 水と緑	<ul style="list-style-type: none"> ○都市の自然環境の更新・活用を進める「質」に対する取組みの推進 ○公園・緑地、池等の自然環境が有する多様な機能を活用するグリーンインフラの整備の推進
⑬ 環境	<ul style="list-style-type: none"> ○都市づくりと合わせた脱炭素化の取組の推進 ○最新技術を活用し、産業と環境の両立など持続可能な都市の実現

課題を踏まえた都市づくりの視点

都市づくりの課題を解決するための重点項目を視点として整理します。この視点の活用については次章で示します。

<都市づくりの視点>

<視点と課題の対応>

視点 1 持続的成長を支える魅力ある拠点

… 【土地利用】【活力】【国際化】
【文化・観光】【地域（拠点）】

視点 2 都市の発展を牽引する産業環境

… 【産業】

視点 3 来街者も円滑に移動できる交通環境

… 【交通】

視点 4 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境

… 【地域（拠点）】【地域力（協働）】
【景観】【生活（住環境・福祉等）】

視点 5 様々な移動手段を選択できる地域交通

… 【交通】

視点 6 強靱で回復しやすい減災都市

… 【安全・安心】

視点 7 様々な活動に支えられた安全・安心な都市

… 【安全・安心】【地域力（協働）】

視点 8 オープンスペースを活かした防災都市

… 【安全・安心】【水と緑】

視点 9 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市

… 【水と緑】

視点 10 持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市

… 【環境】



第3章 めざす都市の姿

将来都市像

「暮らす・働く・訪れる」
大田区らしい多彩な景色が人々を惹きつける

大田区らしい景色とは、豊かな水と緑、住・商・工などさまざまな表情を見せるまちなみ、国内外とつながる空港や港湾、長く育まれてきた歴史や文化など、多様性を持つ都市において、人々の「暮らす、働く、訪れる」という活動が、地域力を源として生き生きと展開されている様子をいいます。

グローバル化の進展、少子高齢化の進行、自然災害の激甚化、技術革新の進展など、都市を取り巻く環境は日々変化しています。大田区の都市づくりは、このような状況に柔軟に対応しながら、多様性を育み、住環境向上を図りつつ職住近接や観光振興など活力ある都市活動を与え、大田区らしい多彩な景色がより多くの人を惹きつける都市を実現していきます。

都市づくりのテーマと視点

将来都市像を実現するためには、生活の中の人々の活動（ソフト施策）とそれを支える都市基盤整備などの都市計画と深く関わる取組（ハード施策）が一体となった展開が必要です。そこで、ソフト施策とハード施策を織り交ぜた4つのテーマを設定し、実現に向けた取組を部門別方針で示します。また、テーマごとに目標となるめざす姿を将来イメージとともに示し、区民をはじめとした様々な主体とめざす姿を共有しながら、実現に向けて取り組んでいきます。

なお、テーマは都市づくりの視点を取りまとめて設定しています。テーマと視点は、部門別方針の各取組に対して横断的な関りを示すことで、戦略的に都市づくりを推進していきます。

都市づくりのテーマと視点

 <p>テーマA にぎわいと交流を生む 国際都市の発展</p>	<p>視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 持続的成長を支える魅力ある拠点 2 都市の発展を牽引する産業環境 3 来街者も円滑に移動できる交通環境 	 <p>テーマB 地域力を育む 暮らしやすい場の提供</p>	<p>視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境 5 様々な移動手段を選択できる地域交通
 <p>テーマC 安全・安心な生活 の実現</p>	<p>視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 強靱で回復しやすい防災都市 7 様々な活動に支えられた安全・安心な都市 8 オープンスペースを活かした防災都市 	 <p>テーマD 地球に優しい環境 の創出</p>	<p>視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市 10 持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市



にぎわいと交流を生む国際都市の発展

テーマ A
企業が集まり交流し
マッチング

国際的な雰囲気や
にぎわいで
楽しく歩ける街

活気とゆとりあふれる
明るい駅前空間

日本らしい文化を体感し
リフレッシュできる

1 持続的成長を支える魅力ある拠点

多様で柔軟な
働き方ができる

まちなか拠点で
生まれる
国際文化交流

2 都市の発展を牽引する産業環境

町工場の技術を
生かし
アイデアを形に
できる

3 来街者も円滑に移動できる交通環境

水上交通で気持ちよく移動

乗換えやルートが分かりやすく案内される

誰もが使いやすい公共交通

空港近くの
皆が楽しめる商業地



地域力を育む暮らしやすい場の提供

テーマ B

歴史的な建物が
まちの拠点として活用される

安心して通れる路地空間

多世代で多様な暮らし方ができる

ベビーカーや車いすでも入りやすい店舗

4 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境

安心して歩ける
歩行者専用道路

自転車やスローモビリティで
行きたい場所に気軽に行ける

誰もが気軽に出店できる

5 様々な移動手段を選択できる地域交通

シームレスな乗り換え
で地域内を移動できる

住民主体でアクティブな
まちづくり

新旧が共存する
商店街

様々な交通手段の専用道がある



安全・安心な生活の実現



テーマ

C

6 強靱で回復しやすい減災都市

無電柱で安全な道路の確保



災害時にいつもの場所が頼れる場所になる



水害でも安心な市街地

7 様々な活動に支えられた安全・安心な都市



顔が見える安心感のある通勤・通学路

平時から高い意識をもつ
事前復興まちづくり



8 オープンスペースを活かした防災都市



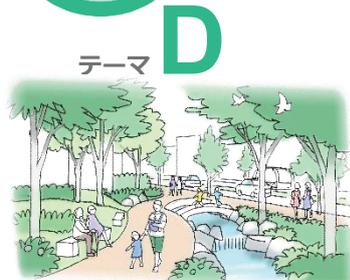
まちのオープンスペースの
防災広場



多くの人を受け入れて避難場所になる公園



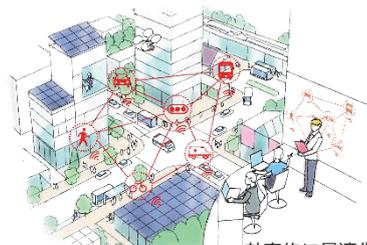
地球に優しい環境の創出



自然豊かな散策路



多世代コミュニティで
緑空間が管理されている



効率的に最適化を図る
都市のシステム

9 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市



思い思いに楽しめる
水辺空間

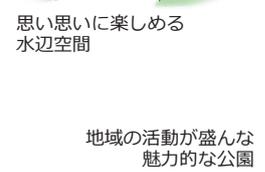


緑あふれる憩いの場所

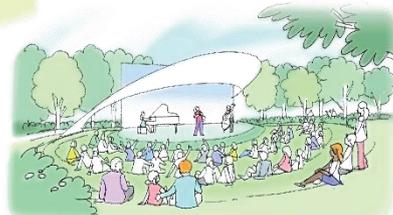
10 持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市



新しいエネルギーを使った
環境負荷の少ない車が普及



地域の活動が盛んな
魅力的な公園



環境と共生し生活の質を高める
脱炭素な都市の実現

土地利用の方針

大田区の地域特性に合わせ、現在の土地利用状況を維持しつつ、都市基盤とのバランスにも配慮しながら、多様なライフスタイルに対応する都市機能の集積やみどりの確保等を進め、住環境や産業環境の維持・向上を図ります。

1 住環境保全型市街地

緑豊かで比較的ゆったりとした良好な住宅市街地については、現在の住環境の保全を図ります。

2 環境維持向上型市街地

都市基盤の利便性を活かし発展した中層や低層の建物が立ち並ぶ住宅地については、現在の環境を維持しつつ、道路等の公共施設の整備などによる住環境の向上を図ります。

3 住工調和型市街地

ものづくり工場と住宅が混在する市街地については、各地区の実情に応じた建築物の整備の誘導を図るとともに、新たな産業を取り込みながら、多様なライフスタイルに対応する、住宅とものづくり工場などの産業拠点が調和した市街地の形成をめざします。

4 都市型産業市街地

都市基盤の整備とともに歴史的な変遷を経て、商店や工場が集積している市街地については、区内や隣接する緑豊かな住宅市街地との調和を図りながら、商業やものづくりなどの産業を活性化するため、さらなる都市機能の集積をめざします。

5 幹線道路沿い市街地

幹線道路沿いの市街地については、交通の利便性を活かした産業系施設の立地、幹線道路の騒音や振動に配慮した環境づくり、災害時の避難路の確保や延焼遮断帯の形成などの観点から、幹線道路沿いにふさわしい市街地の形成を図ります。

6 中心商業業務市街地

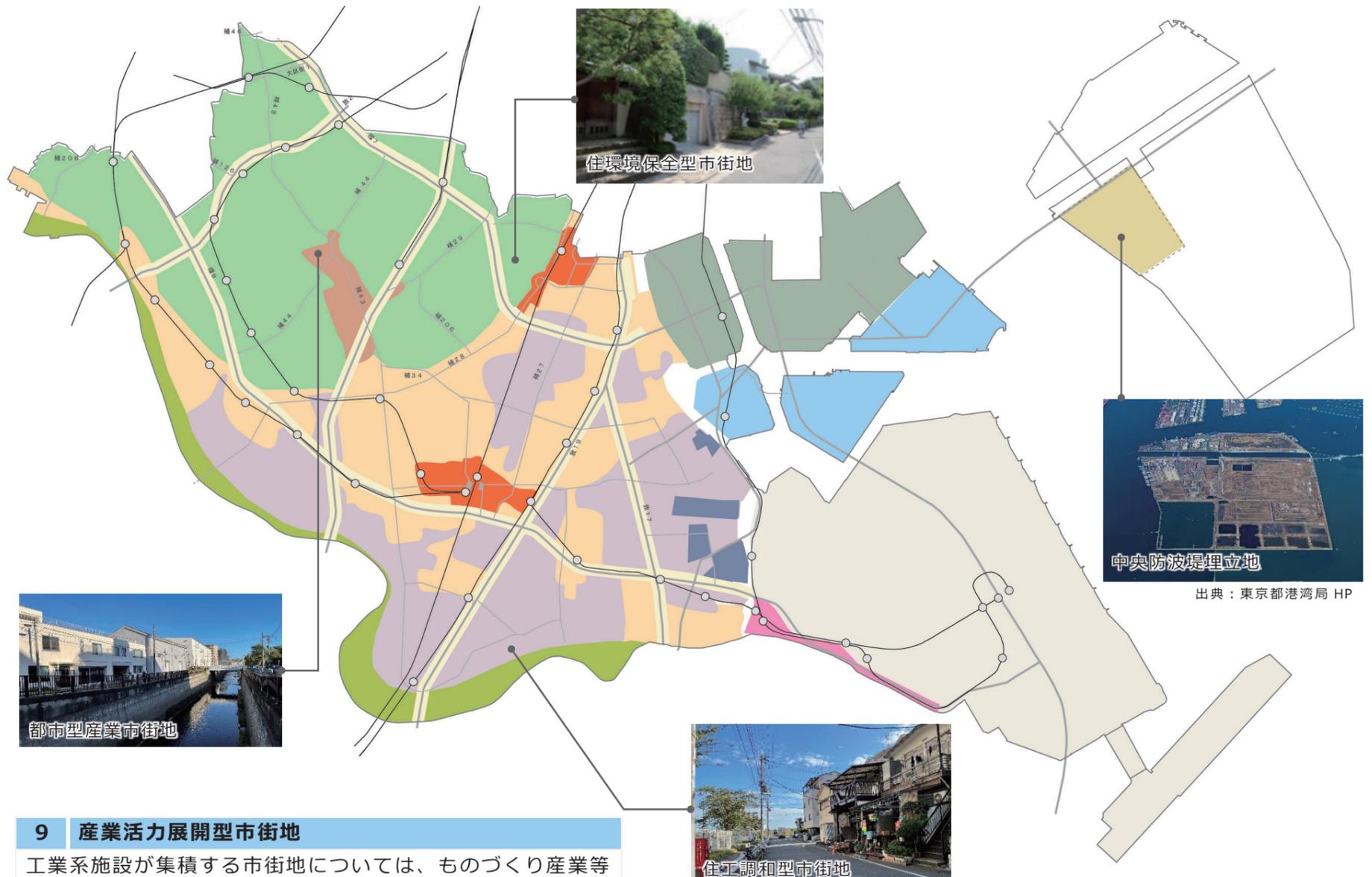
中心拠点として業務・商業系の土地利用が集中している蒲田駅及び大森駅周辺は、さらなる都市機能の強化を図りながら、ゆとりとにぎわいのある市街地形成を図るとともに、広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりをめざします。

7 工業維持促進型市街地

比較的まとまった規模の工場や物流施設が集積する市街地については、隣接する住宅との調和を図りながら、引き続き、工場の立地や操業を継続できる環境の維持、促進をめざします。

8 物流・流通ターミナル市街地

東京圏の一翼を担う港湾機能や物流機能が集積する市街地については、保有する機能の維持強化を図るとともに、広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりをめざします。



9 産業活力展開型市街地

工業系施設が集積する市街地については、ものづくり産業等の操業環境の維持・向上を図るとともに、北側の港湾・物流機能が集積する市街地と連携しながら、広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりをめざします。

10 中心商業業務市街地 (HANEDA GLOBAL WINGS)

中心拠点である HANEDA GLOBAL WINGS(羽田グローバルウイングズ)周辺は、さらなる都市機能の強化を図りながら、羽田空港とともに広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりをめざします。

11 港湾・先端テクノロジー実装エリア

広域拠点域の一角をなす令和島は、先端テクノロジーを取り入れながら、港湾・物流施設の機能強化や就業者の環境改善を図るとともに、中央防波堤埋立地としての一体性確保の観点から、東京都や周辺地域と連携・協調し、「東京ベイ eSG プロジェクト」などの実現に向けた都市づくりをめざします

- ①住環境保全型市街地
- ②環境維持向上型市街地
- ③住工調和型市街地
- ④都市型産業市街地
- ⑤幹線道路沿い市街地
- ⑥中心商業業務市街地
- ⑦工業維持促進型市街地
- ⑧物流・流通ターミナル市街地
- ⑨産業活力展開型市街地
- ⑩中心商業業務市街地 (HANEDA GLOBAL WINGS)
- ⑪港湾・先端テクノロジー実装エリア
- 空港関連用地
- 大規模緑地 など
- 鉄道・鉄道駅
- 主要幹線道路

※「東京ベイ eSG プロジェクト」は、ベイエリアを舞台に 50 年・100 年先までを見据えた東京都のまちづくり構想です。

第4章 部門別方針

部門構成

部門別方針は、主に行政や事業者が都市づくりの方針を共有することを想定しており、行政分野との対応関係が明らかになるよう各部門を設定しました。

部門構成	
1. 拠点整備部門	主に拠点の育成やにぎわいを生む市街地整備に関する方針を示します。
2. 交通部門	主に交通環境の整備に関する方針を示します。
3. 水と緑部門	主に水辺や公園・緑地などの保全・整備に関する方針を示します。
4. 防災・復興部門	主に災害に強い市街地整備に関する方針を示します。
5. 住環境部門	主に住環境整備やユニバーサルデザインに関する方針を示します。
6. 産業部門	主に産業環境や観光に関する方針を示します。

拠点整備部門

東京圏における大田区の役割はより一層大きくなっており、国際都市おたとして広域拠点性の強化・向上を図るため、臨海部を含む区内の広域拠点域相互の連携を強化し、東京圏全体の成長に寄与する都市づくりが必要です。

近年の様々なライフスタイルに柔軟に対応できるような都市づくりにあわせて、地域特性に応じた持続的に成長する拠点形成が求められています。

公共空間の活用



交通部門

区内の広域交通ネットワークを形成する都市計画道路は、未整備の間もあり交通混雑や渋滞を引起す原因の一つとなっています。また、広域的な公共交通の利便性向上のため、新空港線の早期実現に向けて取り組む必要があります。

また、区内東西方向の利便性の向上やウォークアブルな都市空間づくりなど、暮らしやすさの視点を踏まえた取り組みに加えて、脱炭素の視点から、小型モビリティ等の先端技術について導入を進めるなど、活用検討が求められています。

自動運転バスの運行



出典：HANEDA GLOBAL WINGS ホームページ

水と緑部門

都市に潤いと安らぎを与える水と緑の確保に向け、これまでみどりの拠点となる大規模公園・緑地の整備や区民にとっての身近な公園などの整備を進めてきましたが、今後も区内全域で緑の創出に向けた取組が必要です。公園・緑地、公共空間などは、都市のオープンスペースとして、多機能性を持つ

グリーンインフラ事業



出典：グリーンインフラ事例集 (令和3年3月) グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

グリーンインフラとしての価値が再認識されています。多様なニーズに対応した柔軟なオープンスペースの整備・活用を進めるため、公民連携手法をはじめ効果的な手法の検討が課題です。

防災・復興部門

住宅の密集した市街地や住宅と工場が混在した市街地には、狭い道路も多く、災害に対して脆弱な市街地構造をもっています。また、気候変動による更なる風水害・土砂災害リスクの激甚化が懸念され、都市防災について緊急かつ長期的視点から、減災都市づくりが必要です。

地域に暮らす人が安心して生活できるようにするためには、都市基盤や建築物などのハード面の整備とともに、いざというときに地域住民で助け合える関係づくりなどソフト面の取組みを進めることが求められています。加えて、被災からの再生に向けた事前復興準備の推進やエネルギーインフラの整備など、環境にも配慮した回復しやすい都市づくりが必要です。

復興模擬訓練の様子



出典：東京都都市整備局ホームページ

住環境部門

大田区は高齢化の進展などにより空家率も依然高い傾向にあります。誰もが住み続けられ、暮らしやすさを実感できる住環境政策が必要です。

暮らす人、働く人、訪れる人、いずれにおいても快適な環境、ゆとりあるスペースへのニーズが高まり、多様なライフスタイルを支える都市機能の充実が求められています。また、地域共生社会として、誰もが安心して快適に過ごせるよう、ユニバーサルデザインの視点による都市づくりが必要です。

景観については、様々な取組を体系的に進め、地域力を活かした防犯力の向上や脱炭素化に寄与する住環境形成が求められます。

空家の活用



文化交流 ゲストハウス扇子（大田区）

産業部門

大田区はものづくり産業が集積する国内でも有数の都市であり、今後も工業集積の維持・発展に向けた取組を住工調和に配慮しつつ進めることが、都市づくりにおいても大きな課題です。また、商業は工業とともに大田区を代表する産業の一つです。住生活を支える上でもさらなる商業活性化が必要です。

大田区は日本の玄関口である羽田空港を擁するとともに、自然・公園や歴史・文化資源などが豊富です。区外からの観光客だけでなく、大田区ならではのマイクロツーリズムにふさわしい観光コンテンツの提供、受入環境の充実、認知度向上の取組が求められます。

また、今後も新たなビジネスの創出や区内産業の新たな活力となる起業・創業を促していくための環境整備とあわせて、脱炭素化が進む都市づくりが求められています。

新たな産業・ビジネスを支える交流拠点



テーマと部門の関連表

都市づくりのテーマを実現するためには、横断的視点を持って連携していく必要があります。都市づくりのテーマ及び視点と各部門別方針の関連を関連表にて示します。

A			B		C			D	
にぎわいと交流を生む国際都市の発展			地域力を育む暮らしやすい場の提供		安全・安心な生活の実現			地球に優しい環境の創出	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

部門別方針										
拠点整備部門	1. 広域拠点域の都市づくり									
	① 4つの広域拠点域の連携 新空港線									
	② 広域拠点域の拠点性の向上 新空港線									
	2. 中心拠点の都市づくり									
	① にぎわいあふれる中心拠点の都市づくり 新空港線									
	3. 生活拠点の都市づくり									
	① 個性が光る生活拠点の都市づくり 新空港線									
	② 観光資源を活用した生活拠点の魅力の向上									
	4. 地区特性を活かした市街地整備の推進									
	① 地区の生活を支える市街地整備									
	② ワークスタイルの変化への対応									
	③ 公共空間を活用したにぎわいづくり									
	④ 公有地等の有効活用									
	5. 環境に配慮した拠点整備									
① 都市開発の機会を捉えた環境都市づくり 新空港線										
② 効率的なエネルギー利用の促進										
③ スマートシティ構築の推進										
④ 都市開発における風の道の確保										
交通部門	1. 広域連携軸の強化									
	① 広域連携軸を構成する道路網の整備									
	② 広域連携軸を構成する鉄道等の整備 新空港線									
	2. 拠点交流網をはじめとした交通環境の整備									
	① 拠点交流網をはじめとした道路網の整備									
	② 拠点交流網を支える公共交通等の利便性向上 新空港線									
	③ 鉄道や道路の交差点における安全対策の推進									
	④ 歩行者や自転車を主体とした交通環境の整備									
	3. 安全・安心に暮らせる交通環境の整備									
	① 生活道路・狭あい道路の整備									
	② 無電柱化の推進									
	③ 都市基盤の維持更新									
	④ 交通安全の推進									
	4. 誰もが利用しやすい交通環境の整備									
① ユニバーサルデザインに配慮した交通環境づくり 新空港線										
5. 多様な移動手段の導入										
① 水上交通ネットワークの充実										
② 先端技術に対応したハード・ソフトインフラの整備										
③ 様々な移動を網羅した交通計画の推進										
6. 環境負荷の少ない交通体系の形成										
① 環境負荷の少ない移動手段の普及促進										
② 環境に配慮した道路整備										
水と緑部門	1. 都市に潤いと安らぎをもたらす公園・緑地づくり									
	① 拠点公園・緑地の整備									
	② 地域に根ざした公園・緑地の整備									
	③ 地域力を活かしたみどりづくり									
	④ 水と緑の保全・育成									
	2. 水辺を活かした親水施設の整備									
	① 親水緑地整備									
	② 河川の水質浄化対策の推進									
	3. 水と緑のネットワークづくり									
	① 水と緑のネットワークの整備									
	4. グリーンインフラ事業を活用した都市づくり									
	① 緑や水が持つ多面的な機能の発揮									
	② 公共空間の多様な活用によるにぎわいの創出									
	5. 環境に配慮した水と緑の整備									
① 緑化等による二酸化炭素削減										
② 緑化等によるヒートアイランド対策										

都市づくりのテーマ

A			B		C			D	
にぎわいと交流を生む国際都市の発展			地域力を育む暮らしやすい場の提供		安全・安心な生活の実現			地球に優しい環境の創出	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

部門別方針										
防災・復興部門	1. 大規模災害に立ち向かう強靱な都市基盤や市街地形成									
	①骨格防災軸などの整備			○			●		○	
	②木造住宅密集地域をはじめとした市街地整備・改善	○			○		●			
	③建築物の不燃化・耐震化の促進				○		●		○	
	④風水害・土砂災害に強い市街地の形成	○			○		●			
	2. 災害時の都市機能の早期回復									
	①橋梁等ライフラインの耐震性の向上			○			●			
	②中心拠点や産業集積地域の機能継続・早期復旧 <small>新空港線</small>	○	○				●			○
	③帰宅困難者対策	○						●		
	④災害廃棄物対策						●			
	⑤災害時水上輸送ネットワークの向上			○			●			
	3. 地域防災力の向上									
	①地域防災活動の支援				○			●		
	②避難場所・避難所の拡充と分散避難対策	○			○		○		●	○
	4. 事前復興都市づくりの推進									
①復興事前準備の推進	○			○			●			
②復興組織づくりの推進				○			●			
5. 環境に配慮した防災都市づくり										
①災害に備えたエネルギーの確保				○		○			●	
住環境部門	1. 住環境施策の推進									
	①地域の特性に対応した住環境の保全や改善	○			●		○		○	
	②良好な住宅ストックの形成と住宅の質の維持・向上	○			●		○			
	2. 多様なライフスタイルを支える都市機能の充実									
	①子育て、健康と生きがい、高齢者の視点を取り入れた都市づくり	○			●				○	
	②スポーツや健康のための環境整備と活性化	○			●				○	
	③公共施設の効果的・効率的な施設マネジメントの推進	○			●		○			○
	④地域との連携・協働による都市づくり				○			●		
	3. 誰もが利用しやすい公共空間づくり									
	①ユニバーサルデザインに配慮した地域づくり	○			●		○			
	4. 大田区らしい多彩なまちなみづくり									
	①景観都市づくり	○			●					○
	②景観づくりのための仕組みづくり	○			●					
	5. 地域防犯力の向上									
	①地域防犯活動の支援	○			○			●		
6. 環境負荷の少ない都市の形成										
①環境性能の高い建築物の誘導				○				○	●	
②建築物におけるエネルギー利用の効率化と災害への備え				○		○			●	
③住環境のスマート化	○			○		○			●	
産業部門	1. 工業集積の維持・発展に向けた基盤づくり									
	①区内工場立地・操業環境整備	○	●		○					○
	②産業支援施設の整備・維持管理	○	●							○
	③住環境と調和、共存する工場の建設の啓発	●	○		○				○	
	2. 都市づくりと連携した商業の魅力創出									
	①商業集積によるまちの活性化 <small>新空港線</small>	○	○		●				○	
	②都市づくりと連携した商店街の持続的発展	○	○		●					
	3. にぎわいと交流を生む観光都市づくり									
	①観光の推進に向けた受入環境づくり	●			○					
	②観光案内サイン等の整備	●			○					
	4. イノベーション都市づくりの推進									
	①新たな産業、ビジネスを支える都市づくり <small>新空港線</small>	●	○		○					○
	5. 環境に配慮した産業都市づくり									
	①ものづくり産業と連携した環境都市づくり		○						○	●
	②企業立地の機会を捉えた自立性の高いエネルギーの導入		○				○			●

都市づくりのテーマを構成する視点

A1. 持続的成長を支える魅力ある拠点

A2. 都市の発展を牽引する産業環境

A3. 来街者も円滑に移動できる交通環境

B4. 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境

B5. 様々な移動手段を選択できる地域交通

C6. 強靱で回復しやすい減災都市

C7. 様々な活動に支えられた安全・安心な都市

C8. オープンスペースを活かした防災都市

D9. 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市

D10. 持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市

● : 主に関わるテーマ

○ : 関連するテーマ

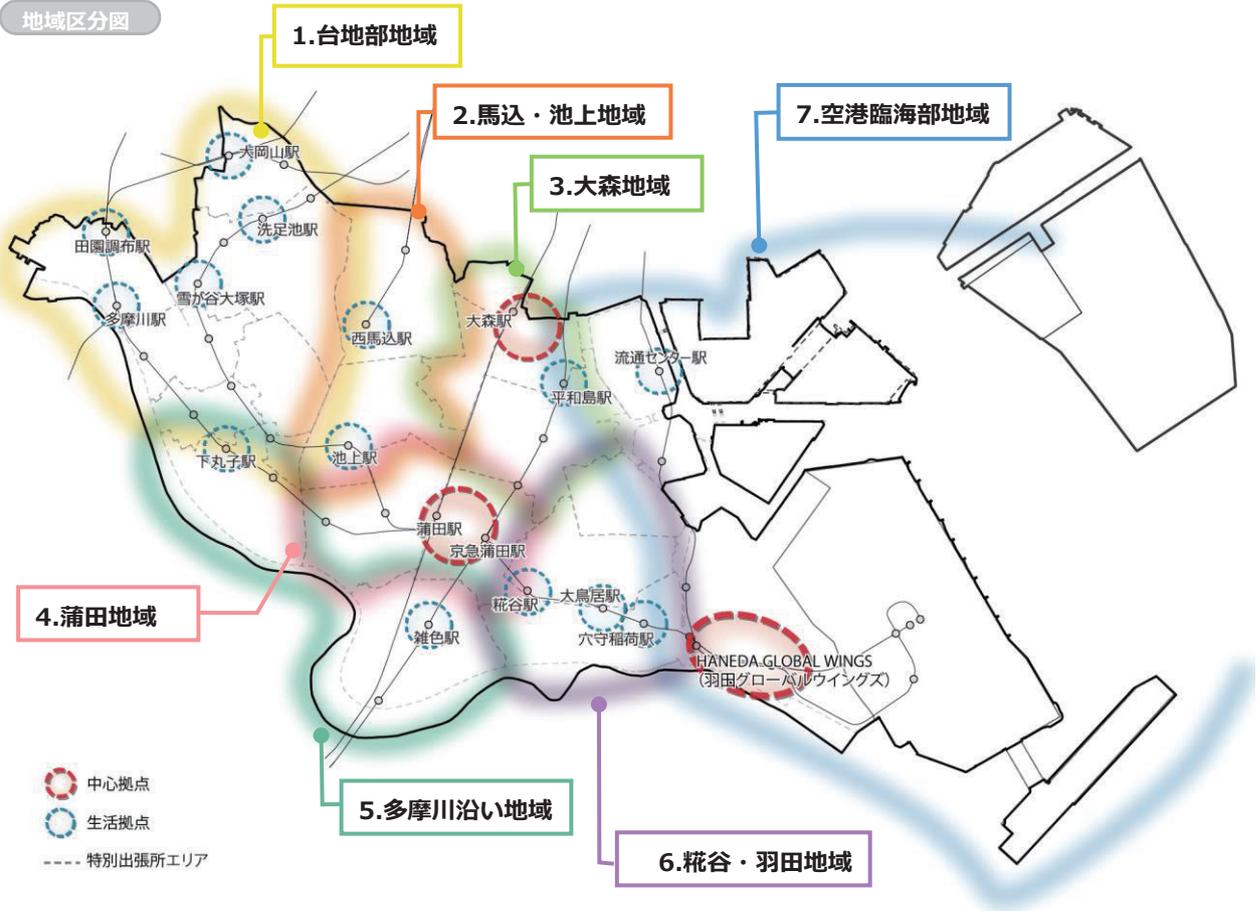
新空港線 : 新空港線整備と沿線都市づくりに関連する方針

第5章 地域別方針

地域区分の設定

大田区では、区内 18 カ所ある特別出張所ごとの特色ある地域づくりを推進し、地域力を育む取り組みを進めています。そこで、地域区分を 18 特別出張所の所管区域を基本に、人口や主な土地利用などを踏まえ、7つの地域に設定します。

地域区分図



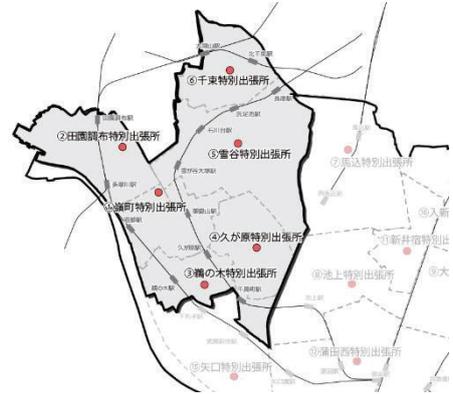
注：地域区分は概ねの境を示したものです。
このため、地域の境界は相互に重なって表現されています。

7つの地域の方針

1. 台地部地域

地域の概要

- ◇ 変化に富んだ地形を生かした住宅地が拡がり、豊かな自然や歴史資源が豊富な地域です。
- ◇ 呑川沿いの工場・倉庫と住宅が混在した市街地や風致地区など、特徴のある住環境を将来にわたって維持・保ち、暮らしやすさを向上させることが重要です。



地域データ

面積 | 11.28 km² 人口 | 183,133 人 世帯数 | 89,953 世帯

出典 平成 27 年国勢調査

台地部地域の方針

緑豊かな低層住宅地や工場・倉庫などが混在する地区など、特徴ある住環境を維持・保全するとともに、歴史文化や自然環境などの地域資源を、憩いや観光の場として活用する都市づくりを進めます。

都市づくり方針図

テーマA にぎわいと交流を生む 国際都市の発展

- ・ 多摩川駅や大岡山駅などの駅周辺における散策路整備や地域資源を活かした回遊性の向上
- ・ 洗足池・多摩川周辺などの自然環境や観光資源を活用した生活拠点の魅力向上

テーマB 地域力を育む 暮らしやすい場の提供

- ・ 生活拠点駅周辺の交通ネットワークの向上や生活支援施設などの集積
- ・ 駅周辺や商店街など商業集積地における魅力ある生活環境づくり
- ・ 良好な景観に配慮した街並みづくり



テーマD 地球に優しい環境の創出

- ・ 多摩川台公園、洗足池公園などの骨格的な緑の保全
- ・ 住宅地に残された緑地・農地の保全
- ・ 多摩川沿いなどの親水緑地空間や水と緑のネットワークによる潤いと憩いの空間づくり

テーマC 安全・安心な生活の実現

- ・ 主要幹線道路（環七・環八通り、中原街道など）沿道の不燃化・耐震化の推進
- ・ 無電柱化の推進
- ・ 多摩川、呑川流域自治体などと連携した総合的な治水対策や市街地の安全対策の推進

凡例

- 住環境保全型市街地
- 環境維持向上型市街地
- 都市型産業市街地
- 幹線道路沿い市街地
- 大規模緑地 など
- 生活拠点
- 水と緑のネットワーク
- 主な公園・緑地
- 風致地区
- 無電柱化事業中路線 (都市計画道路事業中路線を含む)
- 事業実施の際無電柱化を推進する路線 (都市計画道路線外整備路線)
- 鉄道・駅
- 主要幹線道路

2. 馬込・池上地域

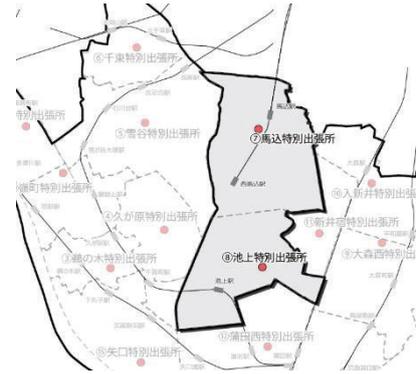
地域の概要

- ◇ 池上本門寺をはじめとする歴史的建造物のほか、呑川や池上本門寺周辺の緑などの自然がある落ち着いた住宅地です。
- ◇ 良好な住環境の維持・保全を図りながら地域内の回遊性を高めて、地域の魅力を発信していくことが重要です。

地域データ

面積 | 5.33 km² 人口 | 99,699 人 世帯数 | 51,401 世帯

出典 平成 27 年国勢調査



馬込・池上地域の方針

池上本門寺をはじめとする歴史文化資源や緑豊かな自然環境を維持・保全し、落ち着いた住宅地を形成するとともに、区民や来街者が訪れやすく快適に過ごせる都市づくりを進めます。

都市づくり方針図

テーマA にぎわいと交流を生む国際都市の発展

- ・ 池上駅周辺では、交通機能の改善や、歴史資源と連携したイベントなどによる地域の魅力発信
- ・ 西馬込駅周辺は、馬込文士村や池上本門寺への玄関口として、観光ネットワークのハブ機能の整備促進

テーマB 地域力を育む暮らしやすい場の提供

- ・ 本門寺公園や呑川などの保全活用による歴史・文化・自然と共生する都市づくり
- ・ 拠点駅周辺における駅利用者の利便性・快適性の向上と、商業機能集積地区の魅力ある生活環境づくり
- ・ 地域と連携した歴史が感じられる街並みづくりや、斜面地の緑地など地域特性を活かした景観づくり

テーマD 地球に優しい環境の創出

- ・ 桜のプロムナードなどの散策路や呑川緑道の整備推進による、水と緑のネットワークの形成
- ・ 生産緑地制度などによる緑地・農地の保全・活用

テーマC 安全・安心な生活の実現

- ・ 主要幹線道路（環七通り、第二京浜など）沿道の不燃化・耐震化の推進
- ・ 内川、呑川流域自治体などと連携した総合的な治水対策や市街地の安全対策の推進
- ・ 池上通りから池上本門寺につながる参道の無電柱化の推進

凡例

- | | | |
|------------|-------------|---------------------------------|
| 住環境保全型市街地 | 生活拠点 | 無電柱化事業中路線
(都市計画道路中環線を含む) |
| 環境維持向上型市街地 | 水と緑のネットワーク | 事業実施の無電柱化を推進する路線
(都市計画道路池上線) |
| 住工調和型市街地 | 防災性の向上を図る地区 | 無電柱化優先整備路線 |
| 都市型産業市街地 | 主な公園・緑地 | 鉄道・駅 |
| 幹線道路沿い市街地 | | 主要幹線道路 |

3. 大森地域

地域の概要

- ◇ 大森駅周辺の商業業務地のほか、山王をはじめとする住宅地、大森西などの町工場などが集中する工業地など、多様な土地利用がなされています。
- ◇ 馬込文士村や運河周辺などの歴史的・文化的な要素もこの地域の特色であり、まちの魅力づくりに活かしていくことが重要です。



地域データ

面積 | 5.22 km² 人口 | 122,154 人 世帯数 | 66,442 世帯
出典 平成 27 年国勢調査

大森地域の方針

中心拠点である大森駅周辺の活力とにぎわいのある拠点形成を進めるとともに、低層住宅地や町工場が集中した工業地など、多様な地域の個性を維持しつつ、大規模公園やスポーツ施設などをまちの魅力づくりに活かしていきます。

都市づくり方針図

中心拠点（大森駅周辺）の主な整備方針

- ・ 大森駅周辺の居住、生活支援、産業ビジネスなどの機能強化と、駅を中心とした安全で快適な歩行者空間の確保
- ・ 利便性の高い東西自由通路整備

にぎわいと交流を生む国際都市の発展

- ・ 東西方向の公共交通ネットワークの充実による臨海部へのアクセス性の向上
- ・ 文化・歴史的な要素と緑に囲まれた山王地区の環境を活かした都市づくり
- ・ 地域資源と公園や駅など主要な施設を結ぶ地域の回遊性を向上

地球に優しい環境の創出

- ・ 都市開発や都市機能の更新に合わせた脱炭素化に向けた都市づくり
- ・ 貴船堀公園など公園の一体的な再整備や、大森ふるさとの浜辺公園などの緑の保全・活用
- ・ 自然環境を活かした水と緑のネットワークづくり

地域力を育む暮らしやすい場の提供

- ・ 平和島駅周辺の歩行者環境や自転車走行環境の整備推進
- ・ 商店街などの商業集積地における魅力ある生活環境づくり
- ・ 地区計画制度や建築協定などを活用した地域の自主的なルールづくりの推進
- ・ 運河周辺での海と文化を活かした景観づくり

安全・安心な生活の実現

- ・ 主要幹線道路（環七通り、第一京浜、産業道路など）沿道や木造密集地域の不燃化・耐震化の推進
- ・ 無電柱化の推進
- ・ 内川流域自治体などと連携した総合的な治水対策や市街地の安全対策の推進



凡例

- | | | |
|--------------|---------------|---------------------------------------|
| ■ 中心商業業務市街地 | ● 中心拠点 | ■ 無電柱化事業中路線
(都計目録道路事業+路線を含む) |
| ■ 住環境保全型市街地 | ● 生活拠点 | ■ 事業実施の際無電柱化を推進する路線
(都計目録道路+大森南地区) |
| ■ 環境維持向上型市街地 | ● 水と緑のネットワーク | — 鉄道・駅 |
| ■ 住工混和型市街地 | ■ 広域都市施設 | — 主要幹線道路 |
| ■ 幹線道路沿い市街地 | ■ 防災性の向上を図る地区 | |
| | ■ 主な公園・緑地 | |
| | ■ 文化・スポーツ関連施設 | |

4. 蒲田地域

地域の概要

- ◇ 区の中心部に位置する地域で、区内最大の商業集積地を囲うように住宅地が広がっています。
- ◇ 蒲田駅及び京急蒲田駅周辺は、羽田空港からの誘客の中心的役割を担っており、今後の大田区の実現を支える取り組みの推進が求められます。

地域データ

面積 | 4.78 km² 人口 | 108,733 人 世帯数 | 62,741 世帯
出典 平成 27 年国勢調査



蒲田地域の方針

中心拠点である蒲田駅・京急蒲田駅周辺を中心とした地区の再整備を推進するとともに、空港に近接する利点を活かした取り組みによる都市づくりを進めます。

都市づくり方針図

中心拠点（蒲田・京急蒲田駅周辺）の主な整備方針

- ・ 蒲田駅周辺の都市基盤施設の一体的整備や、新空港線や駅前広場整備などによる公共交通の利便性向上と交通結節機能の強化
- ・ 京急蒲田駅周辺における地区計画などを活用した都市基盤整備による防災性の向上

地域力を育む暮らしやすい場の提供

- ・ 駅周辺以外の商業集積地などにおける生活機能の集約による生活環境づくり
- ・ 蒲田駅周辺での多様な移動手段の有効活用など、歩行者等を中心とした交通環境づくり
- ・ 呑川沿いの河川景観と調和した市街地形成や歴史的資源を活用した街並みづくり

テーマA にぎわいと交流を生む国際都市の発展

- ・ 羽田空港との近接性や交通結節性を活かした都市機能の誘導と新空港線整備などと連携した都市づくり
- ・ 観光資源の発掘・情報発信などによる、多文化が交流するまちの推進

テーマD 地球に優しい環境の創出

- ・ 都市開発や都市機能の更新に合わせた脱炭素化に向けた都市づくり
- ・ 土地の高度利用などによるオープンスペースの確保や公園などの緑空間の保全
- ・ 呑川緑道の整備・利活用と流域自治体と連携した水質浄化の推進

テーマC 安全・安心な生活の実現

- ・ 木造密集地域や主要幹線道路（環八通り、第一京浜など）沿道の不燃化・耐震化の推進
- ・ 多摩川、呑川流域自治体などと連携した総合的な治水対策や市街地の安全対策の推進
- ・ 帰宅困難者対策など防災拠点機能の向上

0 1000m

凡例

- | | | |
|------------|-------------|---|
| 中心商業業務市街地 | 中心拠点 | 無電柱化事業中路線
(都庁(旧自治体)事業(中野区等)を含む) |
| 環境維持向上型市街地 | 水と緑のネットワーク | 事業実施の際に密利化を推進する路線
(都庁(旧自治体)事業(池袋等)を含む) |
| 住工調和型市街地 | 防災性の向上を図る地区 | 新空港線 |
| 幹線道路沿い市街地 | 主な公園・緑地 | 鉄道・駅 |
| | 公共・文化施設など | 主要幹線道路 |

5. 多摩川沿い地域

地域の概要

- ◇ 工業発祥地のひとつであり、高い技術力を誇る中・小規模の工場が立地し、工場と住宅が混在した市街地が形成されています。
- ◇ 多摩川河川敷は、広大な敷地を活かしたスポーツ・レクリエーションの場として利用され、地域に憩いとやすらぎを与えています。
- ◇ 工場と住宅が共存した市街地環境づくりや、豊かな自然環境を維持していくことが重要です。



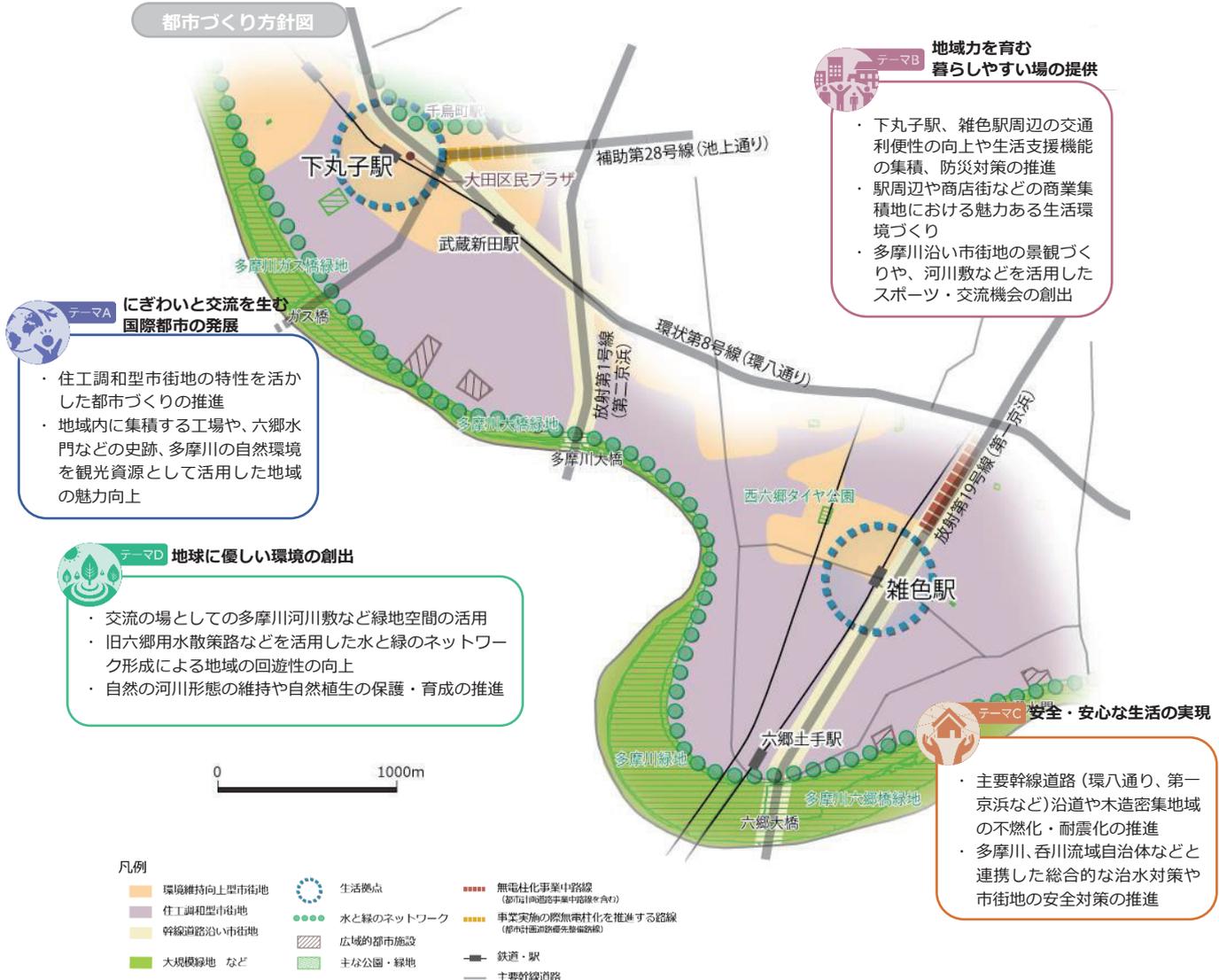
地域データ

面積 | 6.61 km² 人口 | 106,493 人 世帯数 | 51,662 世帯
出典 平成 27 年国勢調査

多摩川沿い地域の 方針

多摩川河川敷の広大な敷地や豊かな自然を維持・保全・活用するとともに、工場と住宅が調和した都市づくりを進めます。

都市づくり方針図



6. 糀谷・羽田地域

地域の概要

- ◇ 狭い路地をはさんで古くからの住宅や工場などが立ち並ぶ街並みが形成されています。
- ◇ 住環境に配慮した工場の操業環境の維持や、防災性に配慮した市街地環境の改善が必要です。

地域データ

面積 | 6.26 km² 人口 | 96,492 人 世帯数 | 48,656 世帯
出典 平成 27 年国勢調査



糀谷・羽田地域の 方針

住環境に配慮した工場の操業環境の維持や、防災性に配慮した市街地環境の改善を進めるとともに、隣接する HANEDA GLOBAL WINGS（羽田グローバルウィングス）の開発による大田区の発展と連携した、地域の特色を活かし来街者を惹きつける都市づくりを進めます。

都市づくり方針図

テーマA にぎわいと交流を生む 国際都市の発展

- ・ 羽田グローバルウィングズと連携した海外企業との交流促進
- ・ 中小企業活性化のための機能強化による都市型産業の促進や工場の操業環境の維持・向上
- ・ 空港隣接地区の特色を活かした外客受け入れ機能の強化と観光コンテンツの充実

テーマD 地球に優しい環境の創出

- ・ 萩中公園などの緑環境の保全と東糀谷防災公園の交流拠点としての活用
- ・ 大規模公園や緑地を結ぶ海辺の散策路の整備や土地利用転換にあわせた新たな緑地の創出
- ・ 工場や空港など生活環境への影響に配慮した都市づくり

テーマB 地域力を育む 暮らしやすい場の提供

- ・ 生活拠点駅周辺の交通機能の強化・改善や利便性の向上
- ・ 駅周辺以外の商業集積地における生活機能の集約など、魅力ある生活環境づくり
- ・ 大規模工場跡地の景観づくりの推進や漁師町の名残を活かした街並みづくり

テーマC 安全・安心な生活の実現

- ・ 木造密集地域における建物の建て替え・共同化、不燃化・耐震化の推進
- ・ 主要幹線道路（環八通り、産業道路）沿道の防災機能（延焼遮断帯、避難路）の確保
- ・ 無電柱化の推進
- ・ 多摩川、呑川流域自治体などと連携した総合的な治水対策や市街地の安全対策の推進

0 1000m

凡例		
環境維持向上型市街地	中心拠点	無電柱化事業中路線 (都市計画道路新事業中路線を含む)
住工調和型市街地	生活拠点	鉄道・駅
幹線道路沿い市街地	水と緑のネットワーク	主要幹線道路
工業維持促進型市街地	広域都市施設	
大規模緑地 など	防災性の向上を図る地区	
	主な公園・緑地	

7. 空港臨海部地域

地域の概要

- ◇ 空港や港湾、流通、業務、工業、市場、大規模公園・緑地などが立地し、産業を主体とする市街地が形成されています。
- ◇ HANEDA GLOBAL WINGS（羽田グローバルウイングズ）や令和島と連携した取組による都市づくりの発展が期待されます。

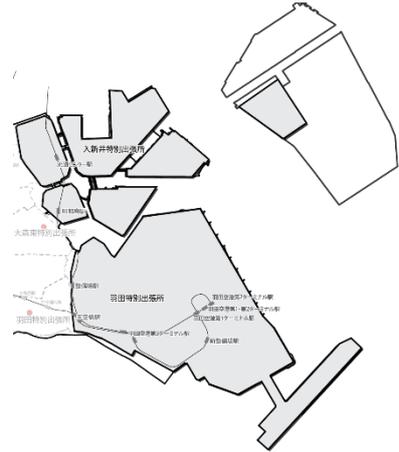
地域データ

面積 | 20.26 km²

人口 | 352 人

世帯数 | 294 世帯

出典 平成 27 年国勢調査



空港臨海部地域の方針

「空港臨海部グランドビジョン」に基づき、港湾・物流・流通機能などの維持強化や産業機能の集積、HANEDA GLOBAL WINGS（羽田グローバルウイングズ）の機能充実など、既存機能と共存した都市づくりを進めます。

都市づくり方針図

中心拠点（HANEDA GLOBAL WINGS）の主な整備方針

- ・ 海外発信機能や文化・交流機能など、多用途な機能を発揮する交流拠点の形成

テーマA にぎわいと交流を生む 国際都市の発展

- ・ 令和島を含む臨海部における回遊性の向上や多摩川スカイブリッジによるキングスカイフロント（川崎市）との相互連携の強化
- ・ 第二湾岸道路などの広域道路ネットワークの整備・強化
- ・ 観光拠点間を結ぶ水上交通の誘致など新たな観光ルートの構築
- ・ 空港臨海エリアの魅力向上に向けた夜間景観の検討

テーマD 地球に優しい環境の創出

- ・ 羽田空港公園のにぎわい創出や防災性の向上に向けた事業化の推進
- ・ 舟運の利用促進など、親水空間や拠点の整備による河川緑地空間の形成
- ・ 再生可能エネルギーの活用や敷地内緑化など、環境負荷の軽減に配慮した市街地の更新

テーマB 地域力を育む 暮らしやすい場の提供

- ・ 流通センター駅などの臨海部の拠点となる地区の利便性向上と交通結節機能の強化
- ・ 道路ネットワークの再構築などによる地域の回遊性の向上
- ・ スポーツ関連施設や公園などの公共空間を活用した交流空間の創出

テーマC 安全・安心な生活の実現

- ・ 東京都や事業者と連携した災害時における水上輸送ネットワークなどの整備促進
- ・ 災害時の避難場所としての公園整備の推進
- ・ 河川堤防の整備や護岸の耐震化などの防災対策の推進

凡例

- 物流・流通ターミナル市街地
- 産業活力展開型市街地
- 中心商業業務市街地 (HANEDA GLOBAL WINGS)
- 港湾・先端テクノロジー実装エリア
- 空港関連用地
- 中心拠点
- 生活拠点
- 水と緑のネットワーク
- 水上交通
- 広域都市施設
- 主な公園・緑地
- 文化・スポーツ関連施設
- 無電柱化事業中路線 (都市計画道路事業中路線を含む)
- 鉄道・駅
- 主要幹線道路

0 1000m



第6章 将来都市像の実現に向けて

都市づくりの推進に向けた取組み

●関連計画との連携

都市づくりにおける効果的な施策の執行による財源の有効活用、国・東京都の事業制度や補助金の更なる活用を図るため、他の関連計画との連携強化を図ります。

●様々な主体が活躍する都市づくりの推進

都市づくりの担い手として、それぞれの役割と責任を果たすとともに協働の精神に基づき行動し、様々な主体が活躍する都市づくりをめざします。

●地域の事前復興活動の推進

平時から災害を想定し、復興に向けた取組みを事前準備するための組織づくりに向けた検討を進めるとともに、平時の様々な課題解決への波及をめざします。

<様々な主体の連携のイメージ>



協働の都市づくりに向けて

将来都市像の実現に向けた手法

●都市計画制度等の活用

都市施設の事業実施に向けた取組みを地域と協働して進めるとともに、様々な都市計画制度の活用についても検討を進めます。

●地域力を生かした大田区まちづくり条例の積極的な活用

開発事業を行う場合に必要手続きや基準の見直しの検討を進めるとともに、都市づくりの機運を醸成する仕組みについて検討を進めます。

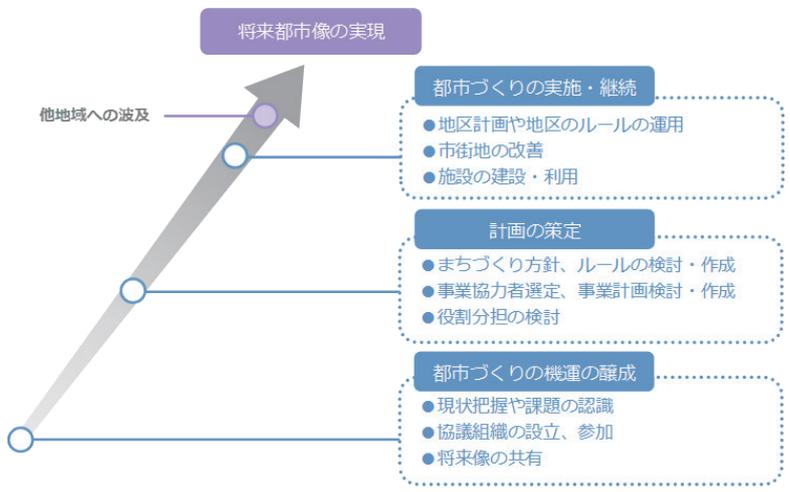
●都市づくりに関する計画の策定と普及

地域の区民等と連携し、地区の個別の都市づくり計画の策定や変化を踏まえ見直しを行うとともに、効果的な活用により総合的・長期的な都市づくりを進めます。また、都市計画マスタープランをはじめとする区の都市づくりに関する考えの普及に努めます。

●データ・新技術等を活用した都市づくり

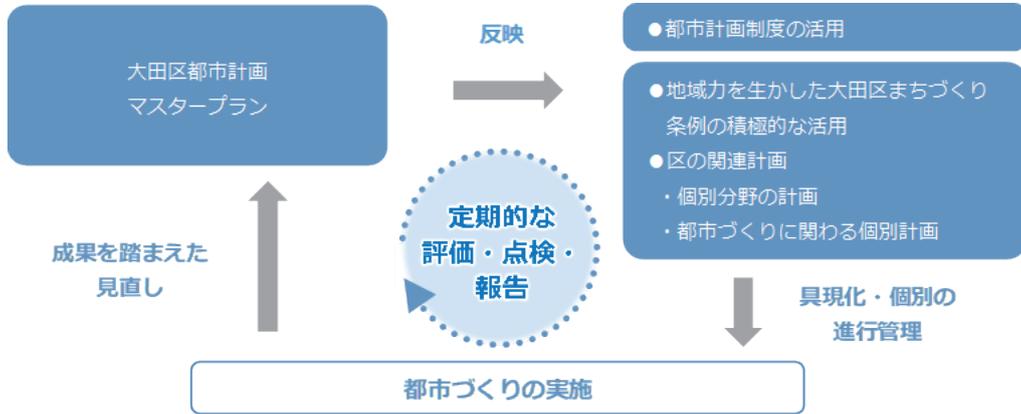
都市づくりにあたって先端技術の活用、都市に関わるデータの分野横断的な統合・可視化、区民等が情報やデータを収集し地域の問題解決策を自ら考えることのできる環境整備、都市づくり情報の「見える化」などを推進します。

<都市づくりのステップイメージ>

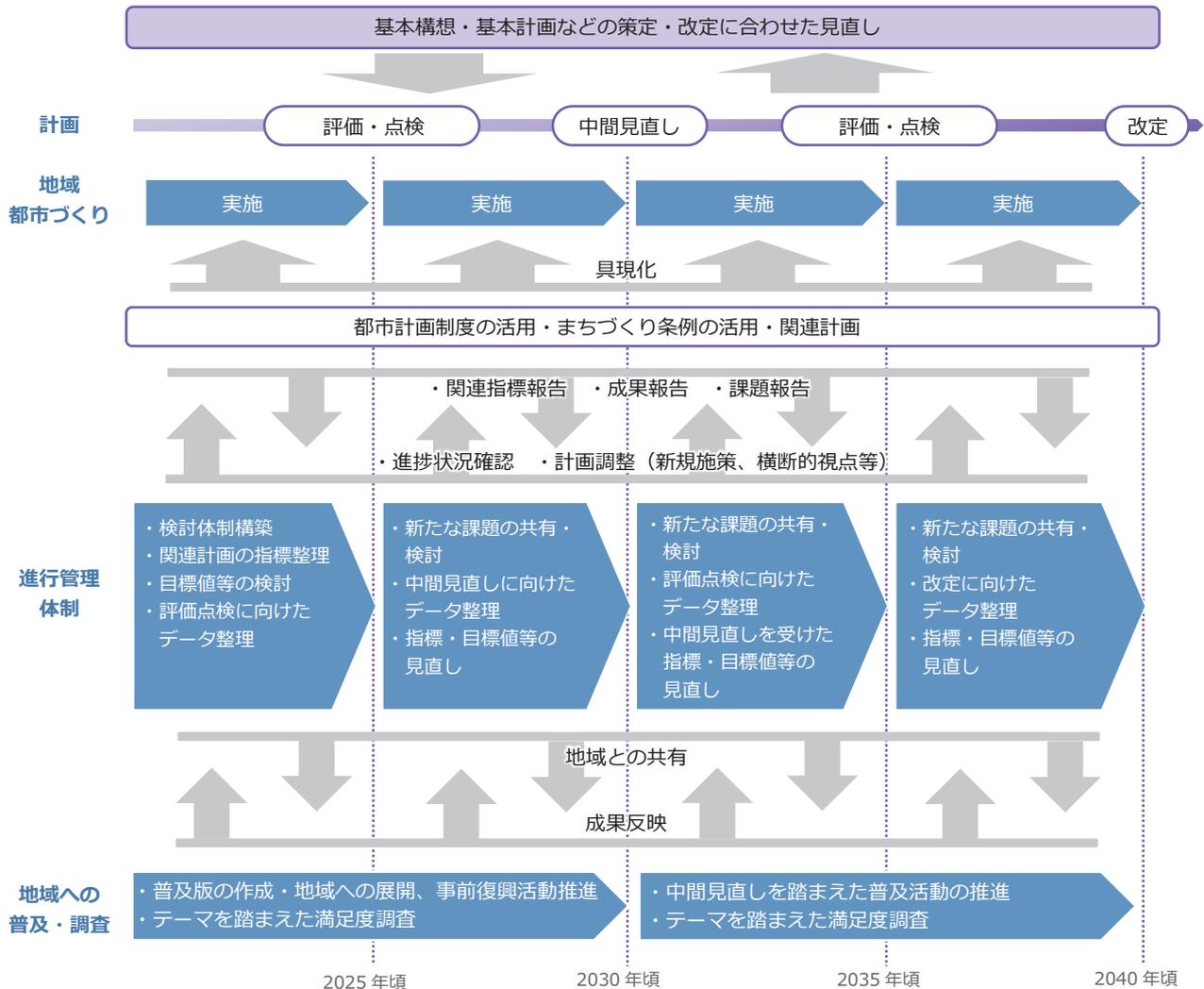


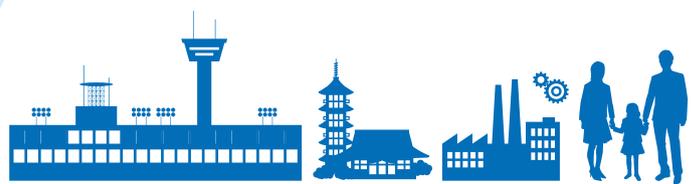
都市計画マスタープランの進行管理

都市計画マスタープランの目標年次は概ね 20 年後と長期に渡ることから、将来都市像の実現に向け適切な進行管理を行うとともに、基本計画などの策定・改定の機会や進行管理と連動し、必要に応じて柔軟に見直しを行います。



<進行管理ロードマップ>





2022 ▶ 2040s

概要版

大田区都市計画マスタープラン 概要版
令和4年3月

発行 | 大田区 まちづくり推進部 都市計画課
〒144-8621 東京都大田区蒲田5丁目13番14号
TEL 03-5744-1333 (直通) FAX 03-5744-1530